

SGNエコ交通研究会 第5回公開セミナー

気候危機と人手不足の時代を 三方よしの交通で乗り切ろう

持続可能な社会への事業者・行政・市民の挑戦



日時

2024年7月23日 (火) 13:30-16:30

場所

キラリエ草津 (草津市立市民総合交流センター) 502会議室
(草津市大路二丁目1番35号/JR草津駅から徒歩約5分)

できるだけ公共交通、徒歩、自転車等でお越しください

プログラム (予定)

基調講演「環境にも地域社会にもやさしい交通を目指して」

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃氏

活動報告「環境経営と健康経営の実践による効果」

エコ交通研究会 牛谷健司 (株式会社日立建機ティエラ)

活動報告「自転車通勤による健康増進と医療費の削減」

エコ交通研究会 松浦 是 (NPO法人自転車活用推進研究会)

活動報告「大津市のバス環境から考える公共交通の役割」

エコ交通研究会 畑中則宏 (おおつ交通まちづくり推進会)

活動報告「公共交通を利用した通勤への取組」

滋賀県土木交通部 県東部地域公共交通支援室 室長 森原広将氏

ディスカッション「令和の社会課題にエコ交通で挑む」

パネリスト：岡本英晃氏、牛谷健司、松浦 是、畑中則宏、森原広将氏 コーディネータ：輪の国びわ湖推進協議会 佐々木和之



交通エコロジー・
モビリティ財団
岡本英晃氏

参加費 SGN会員および学生は無料、一般1000円 ※SGN会員団体から何人参加でも無料 定員 40名

共催 (一社)滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN) 輪の国びわ湖推進協議会

企画 SGN エコ交通研究会 協力 人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀

問合せ (一社)滋賀グリーン活動ネットワーク 事務局 <https://www.shigagpn.gr.jp/>

TEL : 077-510-3585 FAX : 077-510-3586 Mail : sgpn@oregano.ocn.ne.jp

申込み 7月19日 (金) までに右記URLまたはコードの「申込フォーム」より <https://forms.gle/cme1LFLZLaEVwBZ16>

●一般の方は、申込後、締切日までに「参加費1000円」をお振込みください。入金確認後に受付完了となります。
振込先：滋賀銀行 県庁支店 普通506188 シャ) シガグリーンカutdownネットワーク



気候危機と人手不足の時代を三方よしの交通で乗り切ろう 持続可能な社会への事業者・行政・市民の挑戦

CO2ネットゼロ社会をめざし、滋賀県が温室効果ガスの排出量半減の目標を掲げる2030年まであと6年弱。滋賀県では運輸部門におけるCO₂排出量の約91.7%が自動車に由来しています。

人手不足の時代、環境意識の高い若い世代から優秀な従業員を確保するためには、事業所への車以外でのアクセスを保證することは欠かせません。

一方、超高齢社会での医療費抑制が社会課題になる中、エコ通勤により従業員の心身の健康状態が改善するという研究結果が出ています。

過度な車依存の中で交通渋滞や公共交通の衰退も問題となっており、事業活動の継続性や地域社会と地球環境の持続可能性を考える上で、社会全体として移動のあり方を問い直すことが求められている現代。

本セミナーでは、持続可能な交通（EST）を学び、企業における環境経営と健康経営を融合させた取組、エコ交通による具体的な健康効果、事業者が協力して公共交通を支える事例を押さえた上で、各々ができること、協力してできることをともに考えます。

登壇者プロフィール

●岡本英晃氏（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）

大阪府出身。2002年3月近畿大学大学院総合理工学研究科博士後期課程単位取得満期退学。2002年4月交通エコロジー・モビリティ財団入所。専門は交通計画、都市計画。学生時代は交通バリアフリーやLRT、福祉有償運送などを研究。財団入所後は行動変容（モビリティ・マネジメント）を中心にエコドライブの普及などに従事。（一社）日本モビリティ・マネジメント会議委員兼幹事。地域公共交通東北仕事人。



●畑中則宏（エコ交通研究会メンバー おおつ交通まちづくり推進会）

大津市生まれ、大津市育ち、大津市在住。ここ数十年で、大津市内中心部の、特に路線バスの衰退を目の当たりにし、2018年より有志が集まって「おおつ交通まちづくり推進会」（おおつこまち）を発足。公共交通の利便性向上・利用促進や大津駅周辺の賑わいの創出をめざし、講演会やカフェ、路線バスを利用した散策イベントなどを実施している。



●牛谷健司（エコ交通研究会リーダー 株式会社日立建機ティアラ）

大阪府出身。1984年9月農林水産省水産大学校機関学科専攻科卒。1985年3月株式会社東洋社技術部エンジン研究会に配属。1997年株式会社日立建機ティアラに社名変更。日立建機開発部門にてミニ・小型ショベルの開発にあたる。2004年より調達部門と労働組合の書記長兼務。2011年より総務部へ異動。環境・安全関係の業務にあたり現在に至る。社として環境・安全関係の賞罰としてエコ通勤優良事業所認証、滋賀県低炭素社会づくり賞、日立エコファクトリセレクト事業所認定、健康経営優良法人～ホワイト500～、現SGNの買うエコ大賞環境活動表彰を受賞。



●森原広将氏（滋賀県土木交通部 県東部地域公共交通支援室 室長）

2014年から交通戦略課において近江鉄道線に関する業務等を担当。



●佐々木和之（輪の国びわ湖推進協議会 事務局長、水色舎代表）

1973年東京都生まれ。滋賀県立大学を経て九州工業大学大学院博士後期課程単位取得満了退学。専門は住民行政連繫。河川空間における住民行政連繫を研究していたことから、2009年に川づくり・まちづくりコンサルタント水色舎（すいしょくしゃ）起業。輪の国びわ湖推進協議会の設立業務と住民行政連繫を担当し、設立時から事務局長。土木学会会員。



●松浦 是（エコ交通研究会メンバー 輪の国びわ湖推進協議会）

1955年生まれ、68歳、兵庫県西宮市在住。高校生時代には片道13kmの自転車通学を行った。主に製薬メーカーおよび製薬関連企業に勤務し、2008年より自転車通勤を始める。2011年にNPO法人自転車活用推進研究会に参加する。2015年より「自転車通勤で会社は強くできるか!!」と題した連載を業界紙に寄稿。2020年（定年退職後）より自転車通勤と医療費の関係について研究を始め現在に至る。



（一社）滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN) エコ交通研究会

SGNの研究会の一つとして企業、行政、市民らが集まり2017年から本格的に活動しています。気候危機の一因である車中心社会が引き起こす中心市街地の空洞化や、公共交通の衰退、運動不足による医療費増大などの社会問題について考え、環境、SDGs、持続可能な社会、暮らしやすいまちづくり、健康増進と多方面からアプローチし、持続可能な交通の普及をめざしています。ともにエコ交通を研究し活動する仲間を募集中です。